



b Z 4 X

主要諸元

■ 車両型式・車種・性能

車両重量	kg	FWD	1,920
		4WD	2,010
一充電走行距離 ※WLTCモード	km	FWD	559
		4WD	540

■ 寸法・定員

全長	mm	4,690
全幅	mm	1,860
全高	mm	1,650
乗車定員	名	5

■ 動力用主電池

種類		リチウムイオン電池
総電力量	kWh	71.40

bZ4X WEBカタログ「トヨタ bZ4X 主要諸元表」から抜粋

第 2 次豊田市次世代自動車充電インフラ整備方針

1 背景・意義

市は 2013 年に充電インフラ整備方針を策定し、公共施設を中心に 33 か所 42 口を整備してきたが、BEV（バッテリー電気自動車）の普及拡大を受け、都市の特性・利用状況等を踏まえた方針の見直しを行う

2 目的・目標

- ・ BEV の普及拡大への対応と脱炭素社会の実現に向けて、市としての基礎充電・目的地充電・経路充電の役割を明確化し、適材適所の配置・機器・課金・利用促進の方針を定める
- ・ 方針に基づき、2030 年までに 36 か所 60 口の充電インフラ整備を目指す

（整備の前提）

- ・ 基礎充電は、豊田市エコファミリー支援補助金により、家庭での充電器導入を促進する。
- ・ 経路充電・目的地充電は、商業施設を中心に充電器の普及が進んでいることから、市は、民間の不足分を補うことを念頭に、既設の公共施設での機器更新を前提に整備する
- ・ 充電器の整備に当たっては、可能な限り再生可能エネルギーと連系し、脱炭素化を図る
 - ◆基礎充電・・・自宅や事業所などで行う充電
 - ◆目的地充電・・・集客施設などの滞在時に行う充電
 - ◆経路充電・・・目的地に向かう途中で行う充電

3 方針

（1）配置

- ・ 都市部においては、商業施設等での目的地充電や経路充電が充実する一方で、山村部ではどちらも不足しており、長距離移動時の電欠が懸念される
- ・ このため、都市部では公共施設での目的地充電を再整備し、山村部では公共施設での目的地充電の再整備に加え、市中心部から 20 km 圏域の公共施設等での経路充電を拡充する

（2）機器

- ・ 都市部及び山村部の目的地充電は、設置施設の利用状況に応じて、最適な電圧・充電の口数・機能を備えた普通充電器を整備する
- ・ 山村部の経路充電は、幹線道路沿いの公共施設等に、必要最低限度の急速充電器を整備する

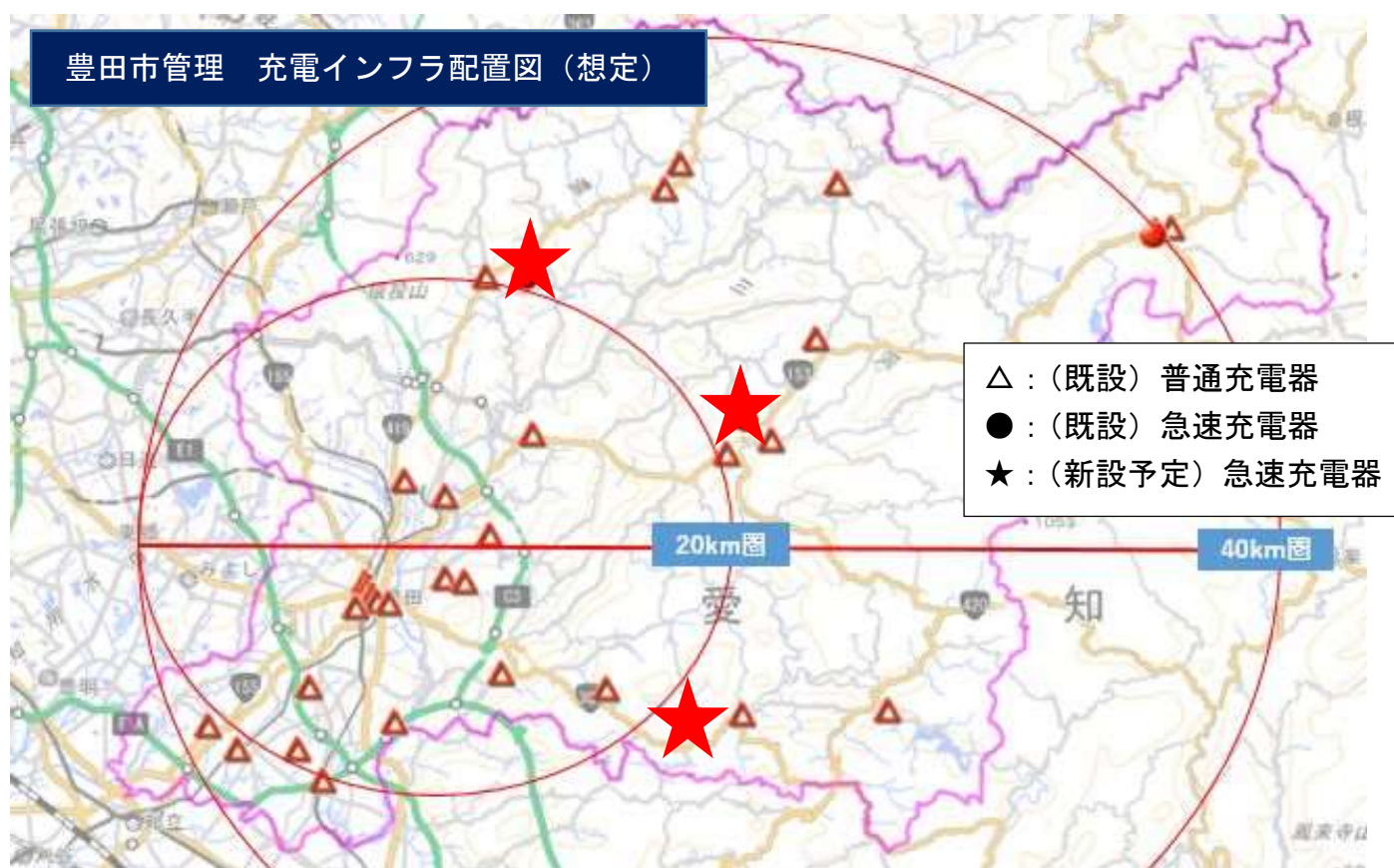
（3）課金

- ・ 都市部及び山村部の目的地充電は、設置する施設の利用促進を考慮し、電動車の普及状況に応じて課金を検討する
- ・ 山村部の経路充電は、民間の充電施設の課金状況を考慮し、原則課金する

（4）利用促進

- ・ ユニバーサルデザインを念頭に、全ての人が使いやすい充電器となるように配慮する
- ・ 充電器の設置箇所と合わせて、周辺の施設や観光情報などを一体的に提供する仕組みなど、利用者にとって利便性の高いサービスの活用を検討する
- ・ 官民連携により、充電に関する先進技術・サービス実証を展開し、早期の実用化を目指す

【充電インフラ配置】



【充電整備概要 (～2030 年まで)】

エリア	機能	設置個所	充電種別	課金	設置目標 (現状)
都市部	目的地充電	公共施設 (集客施設等)	普通・複数口型	利用状況 等に応じ	32 か所 56 口 (32 か所 41 口)
山村部	目的地充電	公共施設 (観光施設等)	普通・一口型 (コ ンセント含む)	課金検討	
	経路充電	公共施設 (幹線道路沿い)	急速・一口型	課金あり	4 か所 4 口 (1 か所 1 口)
					36 か所 60 口 (33 か所 42 口)